

城内内閣府科学技術政策担当大臣及び上坂原子力委員会委員長海外出張報告

令和7年10月29日

内閣府原子力政策担当室

1. 出張先

オーストリア共和国(ウィーン)

※上坂委員長は オーストリア共和国に加えチェコ共和国(プラハ)を訪問

2. 出張期間

令和7年9月13日(土)～17日(水)

※上坂委員長は9月13日(土)～20日(土)

3. 渡航目的

城内大臣は、ウィーンで開催される第69回国際原子力機関(IAEA)総会に政府代表として出席し、一般討論演説を行うとともに、各国の原子力部門要人及びIAEA高官との意見交換、日本国政府代表及び在ウィーン国際機関日本政府代表部大使主催レセプションでの挨拶、「日本ブース」オープニングセレモニーでの挨拶等を行う。

上坂委員長は、IAEA 総会において各国の原子力部門要人及びIAEA高官との意見交換を実施するとともに、内閣府・原子力委員会主催のサイドイベント「Ac-225 を用いた核医学療法の臨床研究の現状と原料である Ra-226 の供給網」を行う。また、欧州極限光科学拠点 The Extreme Light Infrastructure(ELI)及びチェコ工科大学での講演及び視察を行う。

4. 主要日程

＜城内大臣＞

9月13日(土)東京発 →

14日(日)ウィーン着

各国原子力部門要人との意見交換

15日(月)IAEA総会出席(一般討論演説)

各国原子力部門要人及びIAEA高官との意見交換

日本国政府代表及び在ウィーン国際機関日本政府代表部大使主催レセプション挨拶

「日本ブース」オープニングセレモニー挨拶

16日(火)ウィーン発

17日(水)東京着

＜上坂委員長＞

9月13日(土)東京発 →

14日(日)ウィーン着

各国原子力部門要人との意見交換

15日(月)～17日(水)

各国原子力部門要人及びIAEA高官との意見交換

内閣府・原子力委員会主催のサイドイベント挨拶 等

17日(水)ウィーン発 → プラハ着

18日(木)～19日(金)

欧州極限光科学拠 The Extreme Light Infrastructure(ELI)及び

チェコ工科大学での講演及び視察

20日(土)東京着

5. IAEA 総会 一般討論演説

城内大臣より、日本国政府を代表し、北朝鮮の核・ミサイル問題やイランの核計画の平和的性質の検証の重要性、ウクライナの原子力安全性及び核セキュリティを含む核不拡散、ALPS処理水の海洋放出や東京電力福島第一原子力発電所の廃炉等を含む原子力の平和利用と日本の取組、我が国の IAEA の取組への支援等に関する演説を行った。

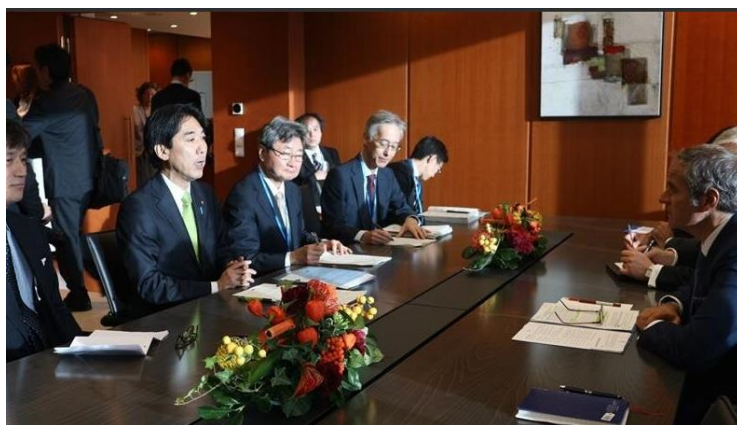
各国の演説原稿はIAEAのホームページに掲載されている。

6. IAEA総会期間中のバイ会談

【城内科学技術政策担当大臣が政府代表として実施】

(1)IAEA グロッシー事務局長

- ・ 城内大臣より、冒頭、我が国とIAEAは、NPT体制の維持・強化に資する核不拡散と原子力の平和的利用の促進という目標を共有し、互いに強い信頼関係を構築できる重要なパートナーであること等を確認した。特にALPS処理水の海洋放出に関するIAEAの継続的な関与への謝意を述べ、IAEAの枠組みの下でレビューやモニタリング等に協力していく旨を発言するとともに、北朝鮮やイランの核問題の解決に向けた両者の取組等について意見交換を行った。
- ・ 城内大臣とグロッシー事務局長との間で、ALPS処理水や我が国の原発再稼働や福島周辺の作業、ザポリージャ原発の現状や小型モジュール炉(SMR)の展望等について意見交換し、引き続き緊密に連携を行うことで一致した。



IAEA グロッシー事務局長とのバイ会談

(2) 米国 ライト エネルギー庁長官

- ・ 城内大臣より、冒頭、日米両国はエネルギー分野を含む原子力の平和的利用及び核不拡散の分野におけるパートナーであり、両国がこの分野で世界をリードするため引き続き連携していくこと、さらには、フュージョンエネルギーの重要性等を確認した。城内大臣とライト長官との間で、SMR やウラン燃料に関する日米協力、ITER 計画、札幌ファイブ等について意見交換し、両国の協力関係を一層強化することで一致した。



米国 ライト エネルギー庁長官とのバイ会談

(3) 仏国 エティアンブル原子力・代替エネルギー長官

- ・ 城内大臣より、冒頭、日仏両国が、核不拡散体制の強化及び原子力の平和的利用の促進のため、50年以上にわたり緊密な協力関係を構築してきた重要なパートナーであることを確認した。また、日仏間の原子力エネルギー分野における次世代革新炉の技術協力や、人材育成を含む産業間協力、ITER(イーター)等のフュージョンエネルギー分野での協力等について意見交換し、両国の協力関係を一層強化することで一致した。



仏国 エティアンブル原子力・代替エネルギー長官とのバイ会談

(4)ベルギー ビエ エネルギー大臣

- ・ 城内大臣より、冒頭、我が国の原子力政策について説明するとともに、先方からの要望に基づき、我が国の原子力炉の再稼働の経験等について説明したほか、両国の原子力分野での協力について意見交換を実施。今後の両国の協力可能性が示唆された。



ベルギー ビエ エネルギー大臣とのバイ会談

【上坂委員長が原子力委員会の職務として実施】

(5)カナダ ラボンテ天然資源省次官補

- ・ 上坂委員長より、冒頭、日本の原子力政策の現況や東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の状況等を説明した。SMR、フュージョン、人材育成等について意見交換を実施し、両国の原子力分野での協力関係を確認した。



カナダ ラボンテ天然資源省次官補とのバイ会談

(6) 欧州委員会 ガリバ エネルギー総局次長

- ・ 上坂委員長より、冒頭、日本の原子力政策の現況を説明し、ALPS 処理水の海洋放出に関する理解と輸入制限解除等の対応に感謝を表明。SMR、フュージョン、医療用ラジオアイソトープ等について意見交換を実施し、日 EU の原子力分野での協力関係を確認した。



欧州委員会 ガリバエネルギー総局次長とのバイ会談

(7) IAEA技術協力局 リウ事務次長

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、日本の医療用ラジオアイソトープに関する取組等を紹介、IAEA の Rays of Hope に関する取組等について意見交換を行った。

(8) IAEA原子力科学・応用局 モクタル事務次長, 物理化学部 ウェルドン部長、
ヒューマンヘルス部 アブデルワハブ部長

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、日本の医療用ラジオアイソトープに関する取組等を紹介、IAEAの Rays of Hope に関する取組や世界の試験研究炉

による Mo99 製造,Ra-226 供給、日本における IAEA アンカーセンターに関する取組等について意見交換を行った。

(9)IAEA 原子力エネルギー局 核燃料サイクル・廃棄物技術部 廃棄物技術課
ザカリア課長

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、日本の医療用ラジオアイソトープに関する取組等を紹介、Ra-226 供給に関し意見交換を行うとともに、IAEA との連携の可能性等を議論した。

(10)IAEA 原子力エネルギー局 核燃料サイクル・廃棄物技術部 試験研究炉課
チャクロフ課長

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、日本の医療用ラジオアイソトープに関する取組等を紹介、世界の試験研究炉による Mo99 製造に関し意見交換を行うとともに、IAEA との連携の可能性等を議論した。

(11) IAEA 原子力エネルギー局 計画・情報・知識管理部 ファン部長

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、日本で開催されたIAEA原子力マネジメントスクールの開催状況や IAEA の協力への感謝を述べるとともに、人材育成分野における今後の日本とIAEAとの連携等について意見交換を行った。

(12) IAEA 原子力エネルギー局 計画・情報・知識管理部 原子力知識管理課
ユニコワ氏

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、日本で開催されたIAEA原子力マネジメントスクールの開催状況や IAEA の協力への感謝を述べるとともに、人材育成分野における今後の日本とIAEAとの連携等について意見交換を行った。

(13) IAEA 原子力エネルギー局 川野氏

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況、日本で開催された IAEA リーゼ・マイトナー・プログラムの開催状況や IAEA の協力への感謝を述べるとともに、今後の日本とIAEAとの連携等について意見交換を行った。

(14) IAEA 原子力保障措置局 実施B部 桐生部長

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況等を紹介し、IAEA への邦人職員や女性職員の登用、IAEA の保障措置の取組状況等について意見交換を行った。

(15) IAEA 原子力安全・核セキュリティ局 放射線・輸送・廃棄物安全部

放射線安全監視課 ピナク課長

- ・ 上坂委員長より、日本の原子力政策の現況等を紹介し、IAEA の福島放射性物質の環境動態の監視・評価に関する取組状況等について意見交換を行った。

7. その他(IAEA 総会)

(1) 日本政府代表及び在ウィーン国際機関日本政府代表部大使主催レセプション

城内大臣及び海部在ウィーン国際機関日本政府代表部大使は、原子力の平和利用を通じたグローバルな課題への我が国の貢献や、国内の主要施策(研究開発、東電福島第一原発対応、福島復興等)を紹介し、我が国の取組に対する国際的な理解の増進を図るとともに、IAEAとの協力関係及び各国との関係構築の強化を図ること等を目的にレセプションを主催した。

城内大臣は、レセプションの開催にあたり、我が国がALPS処理水の海洋放出に引き続き安全かつ着実に取り組んでいくことや、福島の復興が着実な進捗状況等についてスピーチを行った。

(2) 「日本ブース」オープニングセレモニー

内閣府が主催、日本の政府や原子力関連企業の取組を紹介する「日本ブース」では、我が国における第7次エネルギー基本計画の作成及びこれに基づく革新炉開発の取組や、東京電力福島第一原子力発電所における廃炉の進捗を示すコンテンツを展示し、IAEA総会参加者への積極的な情報提供を行った。内閣府は我が国の医療用 RI の国産化実現に向けた取組状況等を紹介した。

城内大臣は、「日本ブース」オープニングセレモニーにおいて、ブースの展示内容に触れながら、我が国が新しいエネルギー基本計画の下、次世代革新炉の開発や、原子力に関するサプライチェーン・人材の維持・強化を力強く推進していること等を発信した。「日本ブース」展示内容の詳細は、原産協会の HP に掲載されている。



「日本ブース」全景

(3) サイドイベント等

○内閣府・原子力委員会主催「Ac-225 を用いた核医学療法の臨床研究の現状と原料である Ra-226 の供給網」

本サイドイベントは、医療用ラジオアイソトープを用いた治療、核医学治療分野で特に注目を集める Ac-225 に関する臨床研究の現状を確認すると共に、Ac-225 の原料となる Ra-226 の需給マッチングについて現状を共有し、世界各国と Win-Win の関係構築に向けた議論に貢献した。

上坂委員長は本件サイドイベントを主催し、医療用ラジオアイソトープへの国際的な期待の高まりや内閣府原子力委員会の取組について触れながら、核医学分野に関する更なる国際協力醸成への期待等を述べた。

また、畑澤原子力委員会参与は、同サイドイベントにおいて、Ac-225 を取り巻く我が国の状況について講演を行うとともに、パネルディスカッションの座長を務め、Ra-226 および Ac-225 による核医学治療の現状と課題等についての議論を主導した。サイドイベント議事概要、講演者等は下記の通り。

<議事概要>

開会挨拶：原子力委員会 上坂 充 委員長

基調講演：ドイツ、デュッセルドルフ大学病院 フレデリック・ギーゼル 教授
「アクチニウム 225 に関する最新研究とその有用性・展望」

講演：IAEA 核物質管理・核不拡散センター(NAPC) アルナ・コルデ 教授
「IAEA 活動を通じたアクチニウム-225 放射性医薬品の世界的普及促進」

講演：IAEA 原子力エネルギー局 核燃料サイクル・廃棄物技術部 廃棄物技術課(NEFW)
タハル・ハミダ 教授
「Ra-226 に関する IAEA の取組」

講演：日本ラジオアイソトープ協会 副会長 畑澤 順 副会長
「アクチニウム 225 に関する最新研究とその有用性・展望」

パネルディスカッション：「Ra-226 および Ac-225 による核医学治療の現状と課題」

座長：原子力委員会 畑澤 順 参与

登壇者：デュッセルドルフ大学 フレデリック・ギーゼル 教授
IAEA NAPC アルナ・コルデ 教授
IAEA NEFW タハル・ハミダ 教授

講評：原子力委員会 畑澤 順 参与

閉会挨拶：原子力委員会 上坂 充 委員長



内閣府・原子力委員会主催サイドイベント実施の様子

○IAEA 主催サイドイベント「From Fellowship to Leadership: Successes of the IAEA Marie Curie Fellowship and Lise Meitner Programmes」

上坂委員長は、原子力分野における女性の活躍促進のためのマリー・キュリー奨学金及びリーゼ・マイトナー・プログラムに関する本サイドイベントに出席。開会挨拶において、令和7年度我が国がホストしたリーゼ・マイトナー・プログラムの振り返りや、IAEA と我が国の協力関係の重要性等を述べた。

○INSC(International Nuclear Societies Council:国際原子力学会協議会)ワークショップ

上坂委員長は、9月17日にIAEA 総会会場で実施されたINSC 総会のワークショップに出席。同ワークショップには、INSC 関係者他、米国原子力学会長、欧州原子力学会長、日本原子力学会、WIN(Women in Nuclear Global)、IAEA 他十数名が参加し、日本や米国、欧州、アフリカ等における原子力利用に関する報告と意見交換が行われた。上坂委員長は、日本原子力学会代表 鈴木 徹氏(東京都市大学教授)とともに、我が国の原子力政策の現状(エネルギー基本計画、原子力発電の状況と革新炉開発等)及び原子力委員会とその取組(原子力利用に関する基本的考え方、医療用RI等利用推進アクションプラン等)について報告した。



INSC ワークショップの様子

8. 欧州極限レーザー研究施設 (ELI)での講演及び視察

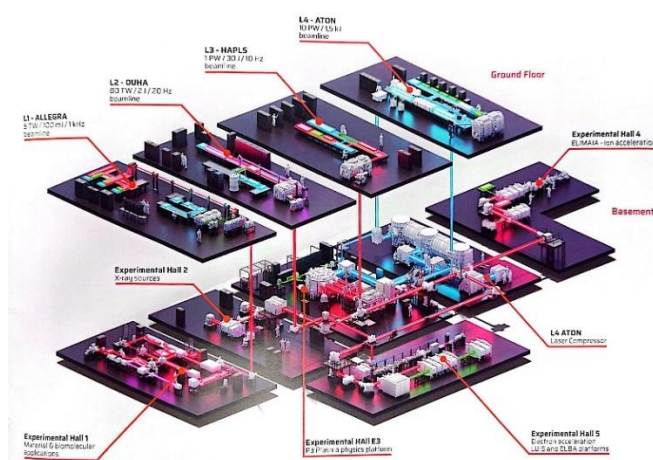
上坂委員長は、欧州極限光科学拠点 The Extreme Light Infrastructure(ELI) 及びチェコ工科大学において、日本の原子力政策の現状等について講演及び視察を行った。

(1) 欧州極限光科学拠点 The Extreme Light Infrastructure(ELI)

- ・ EU が建設・運営する3つのレーザー研究所(チェコ・プラハ、ハンガリー・ゼグド、ルーマニア・ブカレスト)の1つ。1 階に3つのレーザー施設を有し、複数の光 BEAMLINE が2階の利用フロアを貫通し、様々な目的での利用が可能。
- ・ 上坂委員長より、我が国の原子力政策全般に関する講演“Nuclear-Power and Non-power-Applications”を実施。

ELI Beamlines

www.eli-beams.eu



ELI BEAMLINES(外観、実験室レイアウト)

(2) チェコ工科大学

- ・ プラハ市内の原子力工学専攻・学科を訪問。専攻長 Prof. Jan Rataj と会談し、我が国の原子力政策を説明。専攻長からチェコでの原子力の動向の説明を受けた。
- ・ 同キャンパス内の研究炉 VR-1 (100W。炉内燃料棒の配置を、演習に応じて変えられ、炉特性の違いを分析できる、臨界集合体と同じ機能をもつ)、臨界集合体 VR-2 を視察した。



チェコ工科大学教育用研究炉 VR-1 視察の様子

(3) 所感

- ・ チェコでは電力供給の大部分をロシアからの LNG に依存しており、ゼロ炭素のエネルギー源への移行が喫緊の課題。その状況の中、韓国の PWR の建設の計画が進んでいるが、日本の原子力界との関係は良好であり、チェコから日本の原子力関連施設への視察等や学生の研修等交流が行われている。
- ・ 視察当日は同大学の新入生 40 名程が施設を見学していた。原子力工学専攻・学科は 1 学年 40 名程度学生がいて人気がある印象。同国の今後の原子力分野への期待の大きさが表れているようにも感じられた。

以上